

1-3-1-2 市指定・宗猷寺本堂

〈市指定〉昭和 50 年 7 月 10 日

〈所有者〉宗猷寺

〈所在地〉宗猷寺町 218 番地

〈時代〉文政 7 年（1824）

〈員数〉1 棟

本堂（1 棟）桁行 18m、梁間 15.9m、木造入母屋造、銅平板葺

宗猷寺は、高山市内で唯一の臨済宗妙心寺派の寺院である。開基は金森 3 代目の重頼、重勝（左京）の兄弟が、父可重の菩提を弔うため寛永 9 年（1632）、妙心寺前住の南叟宗安和尚を迎えて開山した。初め新安国寺といったが、重頼の法号真龍院殿と重勝の法号徽雲宗猷居士から、山号を真龍山、寺号を宗猷寺と改めた。

南叟宗安は、永禄 6 年（1563）の兵火で荒れ果てた国府町の安国寺を復興したが、重頼の願いにより宗猷寺の開山として兼任をしたのである。

本堂は基壇上に建ち、前面 3 方吹抜け、敷石床となった禅宗様式の強いこの本堂は、文政 7 年（1824）8 月 26 日落成され、大工棟梁は坂野半三郎であった。

量感ある外観を持ち、仏殿や法堂（講堂にあたる）の基本形である敷石・床を前面に、内部を畳敷きとしたことは、その古い形式をよく表わしている。

五山の仏殿や法堂にならって外観を二重にするとともに、和様や大仏様の手法も取り入れている。

参考文献

『高山の文化財』57～58 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年